

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391300031		
法人名	株式会社アキズファイブ		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	愛知県名古屋守山区小幡中三丁目4番2号		
自己評価作成日	令和2年2月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のびのびと明るく、楽しく生活して頂く事。どの入居者様も元気一杯。仲良く、助け合って生活されている。
利用者様が毎日、安全と健康に気を付けて利用者様が楽しく過ごせるグループホームに努める。利用者様が安全及び明るく自立出来ること。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2391300031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は、基本理念でもある「だらん」のある生活環境をつくりながら、利用者が毎日の生活をのんびりと過ごすことができるような支援が行われている。リビングには、利用者全員の方が座ることができるソファの配置が行われたり、壁面にはボランティアの方による作品が飾られてあり、アットホームな雰囲気づくりが行われている。1ユニットのホームである利点を活かし、職員間で情報交換を行いながら利用者一人ひとりに合わせた支援が行われている。利用者の中には、希望に合わせて個別の外出支援の取り組みが行われており、利用者が馴染みの方と交流する機会にもつながっている。ホームでは、利用者が日常的に歌を歌う機会をつくりながら、毎年、区の福祉まつりの際には、利用者ステージに上がって歌を披露する取り組みが行われており、多くの家族の参加も得られている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年2月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、やさしさ、だんらんを常に心がけ、理念をすべてのスタッフを共有している。 ・理念を共有して実践につなげている。 	<p>基本理念が掲げられてあり、「安心、やさしさ、だんらん」を支援の基本としながら、職員間で理念の合わせた支援につなげている。ホームではアットホームな支援が行われており、日常の支援にもつながっている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩中の挨拶、ハーモニカ、オカリナ等のボランティアの方々、地域の方々の助け、交流している。 ・交流をしていると思います。 	<p>ホームは町内会に入り、地域の方との交流が行われている他にも、建物のオーナーがホームの隣に住んでいることで、オーナーを通じた交流も行われている。また、様々なボランティアの方がホームに来訪しており、ボランティアの方を通じた交流も行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか地域の人々に向けての実践は難しい。 ・認知症の人の理解や支援の方法に向けて活かしている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で決めた事、話し合った事、意見をサービスの向上に活かしている。 ・二か月に一回、利用者様の取り組みを話し合っている。 	<p>会議の際には、ホームの行事を見てもらう機会をつくり、家族の出席も得られており、ホームの取り組みを知ってもらい働きかけが行われている。また、会議に薬局の方が出席しており、医療面での情報交換の機会にもつながっている。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていません。 ・ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら取り組んでいる。 	<p>ホームで生活保護の方の受け入れが行われており、市担当部署との情報交換等が行われている。また、区の福祉まつりにホームからも参加しており、交流の取り組みが行われている。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一同、ケアに取り組んでいる。 ・取り組んでいます。 	<p>ホームは身体拘束を行わない支援が行われており、職員間で検討を行いながら、利用者に合わせた支援に取り組んでいる。また、身体拘束に関する検討を行う取り組みや職員で勉強会を行う機会をつくり、職員の振り返りにつなげている。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待は全くありません。人生の先輩、尊敬しています。 ・利用者様に暴力、暴言がないようにスタッフ一人が注意するように努めています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・スタッフ一同、勉強していますが、それらを活用出来てません。 ・活用できるよう支援。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・十分な説明を行っている。御家族様の質問にもきちんと対応している。 ・理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・運営に関する事は常に家族様に見せ、一緒に考えている。 ・運営に反映させている。	ホームで行われている行事(福祉まつり、敬老会等)の際には、多くの家族の参加が得られており、家族との交流が行われている。家族からの要望等は、管理者により行われている。また、毎月の管理者による利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・一か月に一回、話し合いの場を設けている。 ・職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議の他にも、1ユニットの少人数の職員体制である利点を活かし、日常的に職員間で情報交換を行い、職員の意見を日常の支援につなげている。また、管理者から法人代表者に報告しながら、ホームの運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・近くの施設をはじめ、色々な同業者を交流を深め、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・常に気をくばり、安心を確保しています。 ・関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・御家族様とは、信頼関係が出来ている。 ・関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・必要な家族様には、必ず説明をしています。 ・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・職員と本人は家族と一緒に、共に支え合っています。 ・関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・ことある事に家族様と会えるイベントを計画しています。 ・関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・施設に遊びに来て頂いたり、又、その友達に家まで車で送ってあげたりしている。 ・支援に努めている。	利用者の入居前からの関係の方にホームの支援で会いに出かける機会がつけられており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、入居前からの美容院を継続したり、家族との外出の機会もつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・朝から晩まで9人一緒にお過ごしです。孤立などありません。 ・支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・いついつまでも、仲良く、相談や支援に努めている。 ・相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・自分らしく自分の好きな事をしておられます。希望をかなえています。 ・把握に努めて検討している。	職員間で情報交換を行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。また、毎月の職員会議を通じたカンファレンスが行われており、利用者に関する意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・今までの生活をかえる事なく、御本人の望むがごとく、生活を支援しています。 ・サービス利用等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・心身状態、健康状態を把握している。 ・現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・本人を良く観察し、本人、家族、友達等と話し合い、現状に適した計画を作成している。 ・介護計画を作成している。	介護計画については、家族とも話し合いながら6か月での見直しが行われている。モニタリングについては、毎月の職員間でのチェックを行いながら、6か月での評価が行われている。また、日常的にも項目に分けて記録に残す取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・一か月に一度、カンファレンスを行い、見直しに活かしている。 ・実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・精一杯、支援やサービスに取り組んでいる。 ・取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・安全で豊かな暮らしを提供している。 ・利用者様が一日安全で楽しく過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・一か月に二度の訪看、往診に加え、他病院へお連れしたり、適切な医療を受けておられる。 ・適切な医療を受けられるように支援している。	協力医との定期的及び随時の医療面での支援が行われており、現状、全員の利用者が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応の他にも、状況に合わせたホーム職員による受診支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・個々に合わせた受診、看護を受けておられます。 ・受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者との関係づくりには、日頃より人間関係を強めています。 ・関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・近くの施設と仲良くして、グループホームでみれなくなった方はその方の希望を取り入れ、他施設にお願いしている。 ・支援に取り組んでいる。	身体状態の重い方についても、ホームで支援可能な取り組みが行われているが、利用者の看取り支援については対応していないことを家族にも説明が行われている。利用者の状況等に合わせた医療機関等への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・実践力を身に付けている。 ・実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・全職員が常に考え、練習を重ねている。 ・協力体制を築いている。	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。ホーム隣に地主の方が生活しており、非常災害に関する情報交換等が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品が確保されている。	ホームの建物の構造上、利用者の避難誘導に困難が予想される。ホームには夜勤中心の職員も勤務していることもあり、職員間で継続した連携の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・プライバシーの確保、人格を尊重している。 ・言葉に対応している。	職員による利用者への言葉遣い等については、利用者の人格を傷つけないように行うことを管理者からも注意喚起等の機会がつけられている。また、アットホームな雰囲気をつくるような接し方を意識するような取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・自由にのびのびと生活されています。 ・働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・9人のひとりひとりのペースを大切に希望を叶えている。 ・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・毎日化粧し、アクセサリーを付け、各自がおしゃれに興味を持っておられる。 ・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・お盆拭き、もやしのひげを取ってもらったり、湯のみを洗って頂いたり、お手伝いをしてもらっています。	ホームでは、食材業者のメニューを基本に調理が行われているが、利用者の好み等に合わせた対応も行われている。利用者も配膳や片付け等のできることに参加している。また、季節等に合わせた食事作りの取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・一人ひとりに合わせた量はもちろんの事、水分補給には気を付けている。 ・支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・三度の食事の後は、必ず口腔ケアをしています。 ・保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどがパンツで頑張っています。常にお声掛け、見守りをしています。 ・自立に向けた支援を行っている。 	<p>利用者の排泄に関しては、利用者の身体状態等に合わせながら、日常的に情報交換を行い、利用者に合わせて排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本と考えながら、オムツからパンツに移行する等、排泄状態の維持、改善につなげている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘には気を付け、運動はもちろんの事、繊維質のものを重点的に取り入れている。 ・予防に取り組んでいる。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりと一人ひとりが満足した時間を取って入浴タイムを楽しんでいます。 ・入浴を楽しめるように支援をしている。 	<p>利用者は、火曜日と金曜日の午後の時間に全員の方が入浴している。入浴を拒む方も声かけ等を考えながら、定期的な入浴につなげている。また、入浴剤を活用したり、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴が行われている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・布団干し、アロマ、等々、ぐっすりとお休みしています。 ・安眠や休息の支援をしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・これはさんクリニックにまかせています。 ・一人ひとりの服薬の症状の変化の確認に努めている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、張り合いのある生活を提供し、気分転換には十分注意をしています。 ・役割、楽しみごとの支援をしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族様をはじめ、スタッフが一丸となって、カラオケ、買い物、すべて利用者様の希望にそってやっています。 ・そのひとによって体力的のことを考えて出かけるように支援している。 	<p>利用者がホーム周辺を散歩したり、近くの神社に出かける等、外出の機会をつくっている。弁当を持参して花見に行く機会をつくったり、区の福祉まつりに参加する外出が行われている。また、利用者の意向に合わせた個別の外出支援も行われている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・1000円位のお金を与えています。パン、バナナ等、買い物に出掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話をお持ちになっておられ、家族様と掛け合っておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・季節に合わせ、花や工作、カレンダー等々、居心地の良い空間を作っています。 ・居心地よく過ごせるように工夫をしている。	リビングの窓が大きくつくられていることで、リビングは採光に優れており、明るい雰囲気である。全員の方が座ることができるソファが置かれてあり、利用者の寛ぎの在場となっている。また、リビングの壁には、ボランティアの方による作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・一人になれる場所。共用スペース。どちらもその日の気分で過ごされています。 ・一人ひとりの居場所づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・気に入った物は入居の折、お持ちになっておられ、御自分の好きな物に囲まれておられる。 ・本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室には、ホームで家具類を用意していることもあり、持ち込みの少ない方もホームでの生活を継続することができる。利用者の中には、好みの化粧品や衣類を持ち込んでいる方もあり、利用者の意向に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・出来る事は、なんでも自分で。自立に焦点をおき、自分らしく、力強く、生きておられます。 ・安全に心掛け、利用者様が自立した生活が送れるように工夫している。		